

母体胎児科・婦人科

1. 目的と特徴

八千代医療センターは県指定の総合周産期母子医療センターを有しており、周産期を中心とした産婦人科医療を特徴としている。県内医療機関からの母子搬送をはじめとする症例は豊富で、様々な症例の経験を通し、正常妊娠・分娩・産褥からハイリスク妊娠・分娩・産褥について基本から専門的医療まで、幅広い知識・技能を持つ産科医（周産期専門医）を養成する。また女性の性周期、妊娠分娩、婦人科疾患、加齢に伴う生涯のプライマリケアに携わる科として、婦人科は良性・悪性腫瘍、子宮脱、尿失禁、不妊治療、更年期障害、月経前緊張症など内分泌疾患といったあらゆる領域の婦人科疾患に対応している。女性・母体・胎児の立場を理解した診療ができる人間性豊かな産婦人科医を育てることを目指す。

2. 指導スタッフ

母体胎児科・婦人科特任教授 正岡直樹(東京女子医科大学母子総合医療センター兼任)
母体胎児科科長 教授 小川正樹
婦人科科長 講師 中島義之

3. 研修施設

東京女子医科大学附属八千代医療センター

4. 研修カリキュラム

A：一般目標

女性の性周期、妊娠分娩、婦人科疾患、加齢に伴う生涯のプライマリケアに携わる科として、女性特有の病態生理と疾患の診断治療に関する基本的知識と技術を習得したうえで、それを診療に応用し、自己の能力を伸ばす。社会に貢献する使命感と責任感を持った医師となる。

B：行動目標

- 1) 産婦人科専門医として必要な、i)からiv)までの各分野についての基本的診療能力（基本的態度・技能、基本的検査法、基本的治療法）を身につける。
- 2) i)からiv)に必要な検査を指示し、結果を評価して、患者・家族にわかりやすく説明できる。
 - i) 産科・周産期（正常・異常妊娠、分娩、産褥、正常・病的胎児、新生児）
 - ii) 生殖内分泌（内分泌、不妊症、不育症）
 - iii) 腫瘍（良性・悪性腫瘍）
 - iv) 女性のヘルスケア（感染症、心身症、更年期障害）
- 3) 各治療の適応と限界について理解する。
- 4) 母性衛生と関係法規についての知識と書類作成能力を身につける。
- 5) 産婦人科救急患者のプライマリケアを身につける。
- 6) 剖検への参加。
- 7) 医師として基本姿勢を身につける。
※1)～7) 日本産婦人科学会専門医制度卒業後研修目標に準ずる
- 8) 妊娠・分娩経過の正常および異常な側面について生理学的、病理学的に高度な理解を有し、その診断、治療、保健指導について最新の専門的知識と技能を有する。
- 9) 健常新生児及び病的新生児の診断、治療、予後についての最新の専門的知識を有する。
- 10) 患者及びその家族に適切な情報提供が行える。
- 11) 診療、研究について他の医師を指導できる。
※8)～11) 日本周産期・新生児学会周産期専門医制度を求める申請資格（研修カリキュラム）に準ずる。
- 12) 専門医としての人格の向上に努める。
- 13) 患者、家族の訴えを真摯に聞き、共感し、思いやりを示す。
- 14) 新生児科医、小児外科医をはじめとして、関連する他科の医師との連携に配慮し母体・胎児・新生児にとって円滑な医療が行われるよう努力する。
- 15) カンファレンスに参加し、適切な症例呈示を行い、治療方針について討論する。
- 16) 医療安全管理の基本を理解し、実践する。
- 17) 学会への参加、発表、論文の投稿を行う。
- 18) 産科オープン、セミオープンシステムを理解し、推進する。地域の医療機関との良好な連携に努める。

C：年次別研修スケジュールと研修内容概略

以下は基本的なスケジュールであり、変更になることがある。

- 1年次：産婦人科診療の基本を習得する。病棟、外来にて産科・婦人科症例を診療し、症例検討を行う。正常分娩を一人で扱えるようになる。基本的な手術（帝王切開術、卵巣嚢腫核出術、D&C、頸管縫縮術等）を執刀する。
 - 2年次：1年次後期臨床研修医を指導しつつ、ハイリスク症例も主治医として担当する。手術分娩（早産を含む帝王切開術、鉗子・吸引遂娩術）を自ら行えるようになる。婦人科手術（腹式子宮全摘出術、子宮筋腫核出術等）を執刀する。NICUの短期研修を実施する。診療方針決定には主治医として主体的に関与する。
 - 3年次：低年次後期臨床研修医の指導とより高度な産婦人科診療技術・知識・態度を身につける。婦人科手術（腔式子宮全摘出術、子宮脱手術、卵巣腫瘍手術、腹腔鏡下手術等）を術者として行う。
 - 4年次：産婦人科専門医を取得し、さらに **subspecialty** として周産期専門医、腫瘍専門医取得などを旨とする。臨床研究を行い、成果を発表する。婦人科手術は広汎子宮全摘術の執刀を旨とする。
 - 5年次：主治医としてほぼ全ての必要な診療を自ら行えるようになる。指導医として低年次後期臨床研修医のリーダーとなる。**subspecialty** として周産期専門医、腫瘍専門医取得などを旨とする。臨床研究を行い、成果を発表する。
- ※個人の研修計画により希望がある場合には、専門施設における婦人科腫瘍や不妊生殖医療に関する専門研修が可能である。

D：週間予定

以下は2011年5月現在の基本的スケジュールであり、変更となることがある。

	午前	午後	
月	モーニングカンファレンス、病棟回診、外来	外来、病棟処置	抄読会、ペリネイタルカンファレンス
火	モーニングカンファレンス、病棟回診、外来手術	外来、病棟処置、手術	病棟カンファレンス、勉強会
水	モーニングカンファレンス、病棟回診、外来	外来、病棟処置、手術	女子医大3病院産婦人科カンファレンズ
木	モーニングカンファレンス、病棟回診、外来	外来、病棟処置	手術カンファレンス
金	モーニングカンファレンス、病棟回診、外来、手術	外来、病棟処置、手術	
土	病棟回診	病棟処置	

E：評価

科長、各指導医から逐次形成的評価を受ける。産婦人科研修手帳（日本産婦人科学会）または日本周産期・新生児医学会への研修報告に基づく評価を受ける。

5. 後期研修修了後の進路

後期研修修了後、東京女子医科大学附属八千代医療センター母体胎児科・婦人科に就職を希望するものは、周産・女性部長と相談し、助教として採用も可能。

6. 専門医

3年次修了後、4年次には日本産婦人科学会認定産婦人科専門医の認定試験申請資格が得られる。5年次修了後には日本超音波医学会認定超音波専門医の認定試験申請資格が得られる。5年次修了後さらに1年間、当科などの認定研修施設で勤務すれば日本周産期・新生児医学会認定周産期専門医の認定試験申請資格が得られる。

7. 問い合わせ先

〒276-8524 千葉県八千代市大和田新田 477-96

東京女子医科大学附属八千代医療センター

母体胎児科・婦人科 小川正樹、中島義之まで

TEL：047-450-6000（代） FAX：047-458-7052

東京女子医科大学八千代医療センターホームページもご参照ください。